

文学館だより



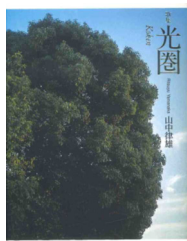
令和 7 年 1 1 月 1 日
若山牧水記念文学館
TEL 0982 - 68 - 9511
文 貴 日 高 第 115 号

= 若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year =

発表！！ 第30回若山牧水賞



やま なか りつ ゆう
山 中 律 雄 氏



こうけん
受賞歌集『光圈』

秋田県にかほ市出身、在住の山中律雄氏、受賞歌集『光圈』に第30回若山牧水賞が決まりました。

山中氏は大学時代から短歌を詠み始め、受賞歌集は第6歌集となり、若山牧水賞と並んで第12回佐藤佐太郎短歌賞のダブル受賞にも輝いています。

現在、曹洞宗禅林寺住職でもいらっしゃいます。

こうけん
受賞歌集『光圈』より

おほよその残生知りてゆくりなくこぼるるわれの涙を宥せ
杖替りと言へば妻にはすまないがこの頃ともに出ること多し
裏畑に実りて赤きミニトマト作も法もなく四つ五つ食ふ
うちつけに闇のなかよりあらはれて蛾が街灯の光圈を飛ぶ

授賞式及び受賞祝賀会	令和8年1月29日(木) 15:00～	宮崎観光ホテル(宮崎市)
受賞者学校訪問	1月30日(金) 午前	宮崎県立延岡商業高等学校
若山牧水生家・若山牧水記念文学館訪問		
受賞記念講演会	1月30日(金) 午後	日向市中央公民館

問い合わせ先 若山牧水賞運営委員会事務局 TEL 0985 - 26 - 7099

山中氏受賞コメント

このたびは栄えある「若山牧水賞」に選出いただきまして心よりお礼申し上げます。拙い歌集に目を留めてくださった選考委員の先生方に感謝申し上げます。短歌初心者の頃、初めて加入した短歌結社が、若山牧水創刊の「創作」であり、どこか不思議な縁を感じています。本当にありがとうございました。

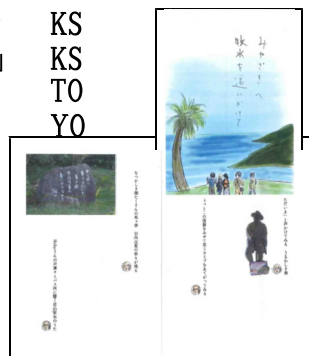
牧水生誕140年の今年、牧水先生と縁ある山中氏の受賞、私たちまで嬉しくなりました。これも「意味ある偶然」でしょうか。お目にかかれる日を楽しみにしています。

「みやざきへ牧水を追いかけて」 みなかみより短歌集届く

駅に立つ牧水像に「ただいま」と声かけてみる うるわしき青
なつかしい 牧水いわく愛しいと言う日向の父母ハグして「ただいま」
坪谷には川あり山あり海もあり人あり酒あり牧水もあり
とうめいなあの川底にころだけ置き忘れててひとり落ち着く

KS
KS
TO
YO

第75回牧水祭に前日よりお越しくくださったみなかみ町牧水会から短歌集「みやざきへ牧水を追いかけて」が届きました。9/16～17開催イベントを詠んだ歌、立ち寄った観光地を詠んだ歌、堪能した食を詠んだ歌など41首が収められています。写真も添えられ宮崎の旅の1冊に仕上がっています。帯には「牧水のふるさと日向の国へ・・・」の文字が。ありがとうございました。



第15回青の國若山牧水短歌大会 入賞者が決定しました

青の國大賞

宮崎県宮崎市 辻本 美菜子 様

宮崎で撮られた場面はすぐわかる透き通る空ひかり満つ海

応募総数 4,191 首の頂点に耀いた作品です。辻本様、おめでとうございます。

【一般の部自由題 最優秀賞】 東京都足立区 小野 史 様
朝焼けに染まるんじゃない僕たちが本気ぶつけて染めるんだ、夏。

【一般の部題詠「上」 最優秀賞】 愛知県名古屋市 清水 良郎様
真四角に畳みて姪が返しくる喪服の上に着た割烹着

【小学生の部 最優秀賞】 日向市立日知屋東小学校 3年 藤原 乙羽様
ももだいすきわたしがすきなそのももをはじめて食べた妹わらう

【中学生の部 最優秀賞】 鵬翔中学校 1年 日高 莉瀬様
教室のすみであなたと二人だけこれが私の「アオハル」なのか

【高校生の部 最優秀賞】 宮崎県立宮崎商業高等学校 3年 高野 もも様
問題集夜更けにひとりページめくる知らぬ世界が静かにひらく

【応募状況】

	一般自由	一般題詠	小学生	中学生	高校生	合 計
第15回 令和 7 年	876 首	854 首	800 首	669 首	992 首	4,191 首
第14回 令和 6 年	669 首	637 首	929 首	945 首	1,551 首	4,731 首

入賞者および入賞作品詳細は当文学館ホームページをご参照ください。

表彰式のお知らせ

日 時： 令和 7 年 12 月 13 日（土） 13:30 ～ 15:00 （12:30 から受付）
場 所： 日向市中央公民館
内 容： 開会行事

表彰

講評 伊藤一彦先生 一般の部自由題選者
大口玲子先生 一般の部題詠、小・中・高校生の部選者

閉会

入場無料です。伊藤先生、大口先生の選評も間近で聞くことができます。
気軽に短歌を味わいに来られませんか。

私も応募を始めて6年経ちますが、入賞の道はほど遠いようです。しばらくは短歌実作基礎講座で修行を重ねます。（ひだか）

牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

菜をあらふと村のをみな子ことごとく寄り来てあらふ温泉の縁に
なをあらうと おらのおみなご ことごとく よりきてあらう いでゆのふちに

牧水は大正 7 年 11 月 12 日、みなかみへ向け旅に出ている。12 日伊香保温泉泊、13 ～ 15 日水上湯原温泉泊、湯桧曾（ゆびそ）温泉、16 ～ 17 日谷川温泉泊、20 日川原湯温泉泊といくつもの温泉に立ち寄っている。中でも谷川温泉においては 29 首もの歌が詠まれており、温泉で菜を洗う娘らの様子、軒先に張られた厄除けのしめ縄の様子、柿の実を拾う男児の様子など、当時の村人たちの様子が想像できるものが多く収められている。

以前紹介した次の歌も同じ時に詠んだものである。

十あまり二十に足らぬ家かずのこの山里に流行性感冒流行る
はやり感冒はらふといひて軒ごとに張れるしめ縄に雪つみにけり

そして 4 年後の大正 11 年、牧水は再びみなかみを訪れ、のちに紀行文「みなかみ紀行」を出版することとなる。

参照 『若山牧水全歌集 伊藤一彦編』
『谷川温泉と若山牧水』